

イスラームをどう教えるか

―栄光学園高校での実践―

栄光学園高校 大 島 弘 尚

一 はじめに

世界史の授業のなかで、イスラーム世界の部分は扱いつらい。私自身、特に研究したこともないし、興味も薄かった。一般的日本人でも最も遠い存在の世界であつただろうし、高校生にも身近なものではなかった。しかし、西アジアを中心としたイスラームの理解なしには、石油危機以来グローバル化する現代世界の動きは把握しえないし、一昨年九月の米国での同時テロに続くアフガニスタン問題の理解には、現代のイスラーム世界とは何かという問題提起はさけられず、色々な解説がされはじめた。

この歴史分科会の世界史研究推進委員会(以後世界史委員会と略)では一九九九年より研究テーマを「イスラーム世界の教材化」として、多くの先生方の研究発表があり、末尾の参考資料のように、この「研究報告」に収録されました。私も世界史委員会に参加し、学ばせていただき、数年ぶりのイスラームの授業には多くのヒントをいただき、世界史委員会の先生方には大変感謝しております。

昨年後半よりイラク問題が大きな国際問題となり、マスコミにもイスラーム世界が度々登場し、生徒の興味も少しは増してきました。世界史の授業と現在の国際問題の理解との関係は切り離せません。地歴科になろうと、社会科学の授業では、現代日本・世界の出来事への興味、関心はつねに生徒に喚起しなければならないと思います。

多くの生徒には、歴史は自分達とは関係ない昔の出来事の学習であり、十数年前のことでさえ現在との関わりは理解できない。冷戦、ソ連の崩壊も、両大戦と同じような過去の出来事にすぎない。歴史は暗記の科目、また大学進学を目指す生徒には、受験のための勉強となりがちです。現代世界が世界史のうえに成り立ち、イスラーム世界を理解しなければ、今日のイラク問題、イスラーム諸国の連帯、イラク国内のシーア派なども分らないと強調します。

私は、授業では「だれに何を、どのように教え、どれだけ理解できたかの確認」が大切と考えています。では、「だれ」に当たる、イスラームの世界史を授業として教えた本校二年生の現況について紹介します。

二 本校の世界史

世界史授業でイスラームを学ぶ高校二年の興味、関心、社会問題の基礎知識は年々変化、後退していると思います。十年ほど前までの本校高校生の多くはギリシア神話の神々の名前などは物語として少しは知り、ギリシア世界の理解の前提となりました。だが、現在の高校生は幼い頃よりゲーム類に没頭したためか、読書などからくる一般的な歴史の基礎知識は確実に減少し、ゼウスもアポロンも多くの生徒は知りません。

本校は中高一貫校ですので、高校入試がなく、中学での社会科学の基礎知識をまとめる機会はありません。社会科学では中学一年で地理、中学二年歴史、中学三年の公民を総合的な学習を含めて週四時間を各学年一人の社会科学教員が担当します。高一で全員必修の地理(二単位)と、近代から現代中心の日本史(三単位)を学んでいます。

新しい教育課程になっても変わりません。全学年とも四クラスの編成で、教員の異動もほとんどないので、担当学年が過去にどの教員にどんなことを教わったか調べやすく、どの生徒がどんな社会的事項に関心を持っていたか、聞くこともできます。高校二年で初めて世界史を教科としては学ぶのですが、中学の地理担当者が世界のどの分野を扱い、歴史担当者は世界史をどれだけ教えたか確認することも容易です。今年度の高二生の中学時代の歴史担当者は、学生時代にエジプトに遊学し、現地での体験だけでなくヒエログリフまで教えていたことなどもわかるのは、中高一貫私学の特徴かも知れません。

本校の高校二年の世界史B（三単位）も全員必修で一学期は先史時代よりはじめ、地中海世界までしか進みませんでした。中学美術は実技中心でギリシア・ローマの美術作品に初めて接する生徒も多いのでビデオの映像も多用しました。また、本校はミッションスクールですが、キリスト教の学習は参加自由の課外活動なので、せめて旧約聖書の世界であるユダヤ民族の歴史、新約聖書の世界である一世紀のローマ時代の基礎知識は学んでほしいと思います、地中海世界の学習に時間をかけました。これはイスラームを学ぶ基礎知識にもなりました。

二学期にインド・中国を中心としたアジア史を学び、中国史は唐末まで、十一月に約十時間の授業でイスラーム世界を教えました。なお、三学期に西洋中世史の分野に入りますが、進度は担当者の裁量にまかせられています。しかし、高校三年は地歴三教科と政治経済より文系進学希望者は二科目、理系希望者は一科目選択必修となります。その選択時期がこの十一月となり、生徒は来年度の選択

を模索しつつ世界史の授業を受けています。高三での世界史選択を決めた者は、世界史用語集を片手に授業に参加、高三での受講はしないとしたものは、定期試験をパスすればという態度になりがちです。このようなドライな態度も年々増加してきています。この時期に、生徒にほとんど基礎知識のないイスラームを教えました。

三 イスラームのイメージ

イスラームの学習に入る直前に、「イスラームのイメージ・知りたいこと・ミニレポート」を全員にアンケートを提出してもらいました。「イスラームのイメージ」と「知りたいこと」は、配付したその場で書くように指示し、「ミニレポート」は教科書（第一学習社）、副教材（『世界史総覧』とうほう刊行）、図書室の本のまとめでよいからイスラーム世界で興味あることを調べて一週間後に提出させました。図書室の入口に高二世界史「イスラーム関連図書」コーナーを設置し、歴史書だけでなく、冊数は少ないが美術、建築、文学の棚からも取り出し紹介しておきました。このコーナーより貸出して授業中に示した本などは、授業中は回覧せず、高二教室前の廊下に提示し、希望者が休み時間に手にできるようにしました。

「イスラームのイメージ」の半数はマイナスのイメージのものでした。「テロ」は各クラスで最も多く、「厳格・あやしい」などがそれに続きます。イスラームへの無知からくる「他宗教に厳しい、神のいいなり」なども見られますが、「ヒゲ・きもちわるい・ターバダ・アフガニスタン・紛争」も目立ちました。今年三月「倫・政・現社部会」で研究発表された市立東高校の智野先生のように数量的

な分析をすれば、他校生との比較もできたかも知れません。ムスリムの祈る姿を描いた生徒も複数いたことには、さすが映像で育った世代と感心しました。

「知りたいこと」としては、「イスラム教の内容・礼拝の仕方・特色・なぜ広まった」などこれからの授業展開にそうものが多く、イスラームの授業への動機付けには役だったと思います。しかし、「なぜアメリカと対立するのか・なぜテロを行う」など現代的関心、「食べ物・生活様式」などイスラーム世界の生活を身近に感じようとしているもの、「ヒゲの意義」などあくまでヒゲにこだわる生徒もいたのですが、授業であまり触れることはできませんでした。

「ミニレポート」では副教材から六信五行をまとめたものが最も多く、イスラームの学問・美術・文学なども「イスラーム関連図書」コーナーの本を調べた人も見られました。ここでもイスラーム建築をスケッチしたり、現在のイスラーム教徒の分布を图示したりして、レポートは文章のみという教員の頭の硬さを痛感しました。この「ミニレポート」の発表から授業展開することも考えられますが、今回の授業時間では無理でした。

この「ミニレポート」回収時に、生徒らの使用したイスラームという表現と、新過程の教科書には使用されている「イスラーム」とのちがいについて説明しました。世界史学習では、生徒は教科書などと異なる表記にこだわります。授業の最初に、外国語をカタカナで表記するには無理があり、現地語読みを基本とするが、日本語での慣用もあることは説明してあります。

東長靖氏は世界史リブレット『イスラームのとらえ方』で「さて、従来日本では「イスラム教」という呼称が一般的であった。しかし

私たちイスラーム研究者は今日、この呼称を避けて、イスラームと呼び慣わしている。まず「イスラム」という部分だが、これは日本人がこの言葉をヨーロッパから輸入したことを物語る。もとのアラビア語ではイスラームで長音の部分はきちんとして表記されている。しかしこれをヨーロッパ語で転写する際には *Islam* と書いて長音記号を省いてしまった。アラビア語を知らなかった多くの日本人は、これを「イスラム」と読んでしまったわけだ」（六頁～七頁）と説明している。また世界史委員会の石橋功先生は「イスラームを世界史教育にどう位置づけるか」で、「用語について、イスラームからイスラームに変化しているが、イスラームをどの視点でみるかでこの変化の理解は深い。欧米から見たイスラームからイスラーム社会からの視点をいれたイスラームと言いかたへの変化である。これと同様にコーランはクルアーンへ、メッカはマッカに、メディーナはメディーナに変化していこう。アラビア語ではア、イ、ウという母音のみで、エ、オという母音は存在しないのだから今までの世界史表記の流れからすれば当然の方向に立っている。またイスラームそのものは「神を信仰すること」の意味であるからイスラーム教では、正確には「イスラーム教」になってしまいうからイスラームで止めるのが当然である。」とまとめています。

生徒らはイスラーム世界に直接触れることは難しい。都合よく、十一月一日（金曜）はカトリックの「諸聖人の祝日」で本校は休日です。で、課外自由参加のモスク金曜礼拝と近くのイスラミックセンター見学会を開きました。前日が全校遠足であり、当日に横浜地方裁判所の見学会も行われたので、参加者は三名だけでした。今年の三月「倫・政部会」の東京巡検でも見学した、代々木上原の新し

い東京ジャーミイの金曜礼拝と、ラマダンを真近にひかえたイスラミックセンターでの説明は大変有益した。

四 ヴィデオ「THE MESSAGE」

イスラームの理解の原点は、創始者マホメット（ムハンマド）とその教えだと思えます。キリスト、シヤカの生涯は多くの生徒は聞いたことはあっても、マホメットに関してはほとんど知識はありません。世界史委員会の先生よりマホメットの生涯を描いたムスタファ・アッカド監督の「THE MESSAGE」（一九七六年製作）という映画のビデオ版を紹介され、手に入れました。ビデオ版でも上下巻となり二時間を超えるので全部は見せる余裕はありません。イスラームの成立に重要と思われる部分のみを残して四十五分間に編集し授業中に観賞しながら、用意した記録用紙にメモを取らせ、授業終了後に提出させました。英語放映で、日本語訳のテロップを画面に見ながら記録しなければならず、生徒には負担なのですが、以前にも経験していますので、多くの生徒がポイントを押さえられたことは、提出させた記録用紙を点検して確認できました。

このビデオの冒頭には、イスラームの教えに従いマホメット自身の映像は一切登場しないという説明文がなされ、偶像禁止の教えが徹底されており、鑑賞中この場面はマホメットの視点にカメラをおいて、撮影されているところだと、説明しました。ロケ地はモロッコの砂漠で、実物大のカーバ神殿のセットで撮影されたものですが、当時の時代背景はよく表されています。中継交易で栄えるメッカ、天啓をうけ教えを説き始める場面、周囲の反発、メディナへの移動（ヒジュラ）、戦闘場面（バドルの戦い）、メッカ入城、アラビア

半島への布教、最後の説教の場などを中心にさせ、特に印象に残った事、疑問点、感想も書いてもらいました。

印象に残った事では、偶像の破壊、キリスト教との関連、「殉教者の血より賢者のインクのほうが必要」という言葉を正確に記した生徒もいました。疑問点ではバドルの戦いの正当性への疑問、現在のイスラム教との相違、当時の偶像崇拜の広がりなど多岐に渡りました。感想としては、宗教の成立の困難さ、最初の信者の偉大さ、宗教を巡る争いの無意味さなどともに、映像のカットで話の流れが分からなかったという素直なものもありました。

五 授業展開

世界史は特定の地域、文明だけを扱うわけにはいきません。内容により時代は前後し、地域は大きく変わるのが、生徒には分かりづらいので、「THE MESSAGE」のビデオを観賞してインパクトを与えようと思いました。以下授業での表題を順に示しながら、授業展開で強調したポイントなどあげてみます。

①風土 西アジアの前史 ササン朝とビザンツ帝国 中継交易
アラビア半島の気候とアラブ人（セム系）

現代の西アジア問題 イラク問題 パレスチナ問題

②ムハンマド 「THE MESSAGE」鑑賞 イスラームの教え 六信
五行 啓示宗教 一神教（ユダヤ教→キリスト教）「神は偉大なり」ビデオ「イスラム潮流」よりカーバ神殿とメッカ巡礼
課題・イスラーム白地図完成 副教材付属「白地図ワーク」提出

・期末試験参照用のイスラーム年表作成を指示し後日提出

③カリフ時代 カリフ選出 ジハードにより拡大 アラブ帝国建設

アラブ人ムスリム中心の社会 ジズヤとハラージュ

聖典「コーラン」 アラビア語の原典を提示しテーブを視聴

④ウマイヤ朝 アラブ帝国として発展・拡大 商業ネットワーク

ビデオで現在もインド洋で活動するダウ船を確認

シーア派とスンナ派の分裂 アラブ人の定住化

⑤アッバース朝 アッバース革命 バグダードの建設

イスラーム帝国の特色 多民族国家 ムスリムにジズヤ免除

ハールーン・アルラッシードの時代 イスラーム文明の栄華

諸民族のイスラーム王朝の自立 イラン系・トルコ系

ブワイフ朝とセルジューク朝のバグダード入城

⑥イスラーム文明 融合文明 神学・法学・歴史学・数学の発展

イラン・イスラーム文明 ペルシア文明を継承・発展

トルコ・イスラーム文明 中央アジアのイスラーム化

スペイン・イスラーム文明 イベリア半島のイスラーム化

⑦まとめ 現在まで続く信仰生活・コーラン学習

ビデオ「イスラームの生活と文化」現代のヨルダンでの信仰生活

マドラサでのコーラン暗唱

・資料「ヨーロッパの翻訳時代」「イスラーム史上のトルコ人」

『医学典範』と西洋」「アラビアの化学知識」

・資料「イスラーム世界重要語句(過去センター試験の設問語句)」

過去十年間のセンター本・追試験の選択肢より頻度も提示

(十三世紀以後のイスラーム世界の分裂・危機・植民地化などは

高三の世界史授業で学習する予定)

六 期末試験

二学期末の期末試験の範囲は、二学期中間試験後からとしたので中国史が中心となり、このイスラームに関しては、自作の年表のみは参照してよいとしました。事前に、世紀と地域を印刷した用紙を配付、試験前に提出させ、年表以外の事項が書かれていないか調べ、試験用紙とともに各自に返却して参照させました。これはアラブ人以外のイスラーム諸王朝に授業ではふれることができません、生徒各自年表にまとめる作業により、事前に諸王朝についても教科書で予習するよう期待したからです。

定期試験は生徒の学習実績を評価する重要な資料となるとともに、生徒がどれだけ授業を理解し、教師の期待に答えられたか知ることができません。私は、現代の社会情勢の基本事項と地図問題、授業中に示した歴史的物事の図示、論述問題は毎回出題しています。今回の試験では、イラク問題とイスラーム帝国の地図とダウ船の図示を設問としました。生徒らは基本的用語は割合と答えられるのですが、それらの関係を説明する記述、論述は苦手です。これはセンター試験をはじめ、大学入学試験の大部分が歴史用語の記憶をもとめ、高校の歴史学習がそれに合わせているからでしょう。生徒が流れやすいように、入試のための高校の勉強ならぬよう自戒しています。そのためにも、年表を各自に作らせ、まとめる努力をさせ試験したのですが、年表には記入してあっても理解してないので答えられない者が目立ちました。論述問題は「イスラーム史上のトルコ人の役割」と「シーア派の諸王朝での役割」の選択でしたが、試験直前配付の資料は読まれないと反省しました。また、地図提出だけではイスラーム王朝の範囲、その中心城市の確認は不十分で、学習に余

裕のない生徒には試験準備として、資料プリントの読解、歴史地図の理解は負担だったと反省しました。

七 県テスト

本校では、一九六四年度より社会科部会の世界史学力テスト（県テスト）を全員必修で実施し、その問題、結果の大部分を保存しています。今年度もこの一月十五日に行い、イスラームの問題は全員必修としました。テスト委員会に報告したように、各問ごとの正答率をとると、生徒の理解度、誤り易い箇所が判明します。このテストではアケメネス朝とササン朝を混同した誤答が最多でした。期末試験にも出題はしていたのですが、イスラーム世界とその前史が連続した歴史として理解されていません。また、期末試験のように歴史地図の理解が不十分でピレネー山脈、カイロに誤答が目立ち、地理分野の指導不足を痛感しました。

今回の県テストの本校の得点分布は次のようですが、これは学年全体の学習態度、意欲がある程度まで表していると思います。学年の平均点はあまり問題ではなく、上位者とともに、世界史基礎知識の定着していない、意欲の低い不振者の分布状況の分析は、今後の指導の参考になります。世界史学習は努力すればその成果は確実に表れますので、学習意欲の程度、学習習慣の定着度の判断の指標としてみるにも有効だと思っております。

今年度	人	100点
3	1	90～
39	22	80～
32	27	70～
35	29	60～
27	30	50～
37	42	40～
7	20	30～
0	7	20～
0	1	

八 まとめ

「イスラーム世界をどう教えか」としながらも、本校の実践報告のみになり、独自性のある授業ではありませんでした。本校の場合、高校二年間で世界歴史全体を学ばせ、かつ大学入試にも対応させねばなりません。世界史委員会の先生方には色々な授業実践のヒントをいただきながら、授業に十分に生かせず苦慮しました。今後も、変化する生徒と、社会の動きを見つめながら、イスラームを含めた世界史を分かりやすく教え、十分理解させ、国際的教養を身に付けて活動する生徒を育てるよう努力していきたいと思っています。

【参考資料】

- 東長 靖 『イスラームのとらえ方』 世界史リブレット山川出版 一九九七
- 三浦 徹 『イスラームの都市生活』 世界史リブレット山川出版 一九九七
- 県社会科歴史分科会 「歴史分科会研究報告 第28号」 一九九七
- 松木 謙一 「イスラーム世界の教材化・経過報告」
- 小島 正 「イスラーム世界への招待」
- 西浜 吉晴 「近代以前のイスラーム世界の歴史」
- 県社会科歴史分科会 「歴史分科会研究報告 第29号」 二〇〇〇
- 松木 謙一 「イスラーム世界の教材化・経過報告」
- 石橋 功 「イスラームを世界史教育にどう位置づけるか」
- 県社会科歴史分科会 「歴史分科会研究報告 第30号」 二〇〇一
- 小島 正 「イスラーム世界の教材化・経過報告」
- 押野 尚夫 「イスラームの飲酒文化」
- 小杉 隆一 「イスラーム世界の女性」について